

北米最大のドキュメンタリー映画祭 最高賞受賞!
台湾国際ドキュメンタリー映画祭 3冠受賞!



香港・日本合作ドキュメンタリー

BLUE ISLAND

ブルーアイランド

憂鬱之島

香港、ここで生きていく

監督・編集:チャン・ジーウン 『乱世備忘 僕らの雨傘運動』

プロデューサー:(香港)ピーター・ヤム アンドリュー・チョイ/(日本)小林三四郎 馬奈木敏太郎 撮影:ヤルイ・シートオウ 音楽:ジャックラム・ホー ガーシオン・ウォン 美術:ロイ・チョイ
字幕:藤原由希 字幕監修:Miss D 製作:Blue Island production 配給:太秦 2022|香港・日本|カラー|DCP|5.1ch|97分 ©2022 Blue Island project

激動の三時代を生き、実在する三人の視点が絡み合う
それぞれが求めた“香港人”アイデンティティ

blueisland-movie.com



時代革命

REVOLUTION OF OUR TIMES

A Film by Hongkongers
香港人作品

2021
カンヌ国際映画祭
スペシャル・スクリーニング

2021
金馬獎
最優秀ドキュメンタリー賞

時代を超えろ
カンヌ国際映画祭のサプライズ上映で
世界に勇名を馳せた衝撃作、遂に日本公開!
抗争の最前線で闘う若者たちの姿を描いた、
香港人の自由と民主主義への闘い

監督:キウイ・チョウ

2021年/香港/158分/シネマスコープ/英語:REVOLUTION OF OUR TIMES
配給:太秦 ©Haven Productions Ltd.

www.jidaikakumei.com



49340



牙をむき出した権力に、自由は傷だらけになって立ち向かう。

REVOLUTION OF OUR TIMES

現在、過去、未来

自由を求め続け、彼らが辿った激動の記録 “香港人”としてのアイデンティティ

すべては、彼らが世界と向き合おうとした時期に起きた出来事だった。ある者は文化大革命が起こるくらいならと、香港に向かって横たわる海峡を泳ぎ渡ることを選んだ。また、ある者は学生の自由の要求を支持し天安門広場へと向かったが、戦車と銃弾によって夢と肉体が削ぎ落とされる光景を目撃することになった。そして、ある者は理想の香港を作るため暴動の渦中に向かっていった…。この若き日の熱狂は、時代の移り変わりとともに深い闇の中に埋もれてしまった。しかし、彼らがいかに抵抗したかという記憶は、香港の歴史に残るかけがえのない瞬間の記録と証言であり、市民運動に参加する若者たちへ今でも多くの示唆を与えている。それぞれの世代の葛藤から、未曾有の危機に直面している香港の人々は、何を受け止め、どのような答えを導き出すのか。そして、私たち自身は…。

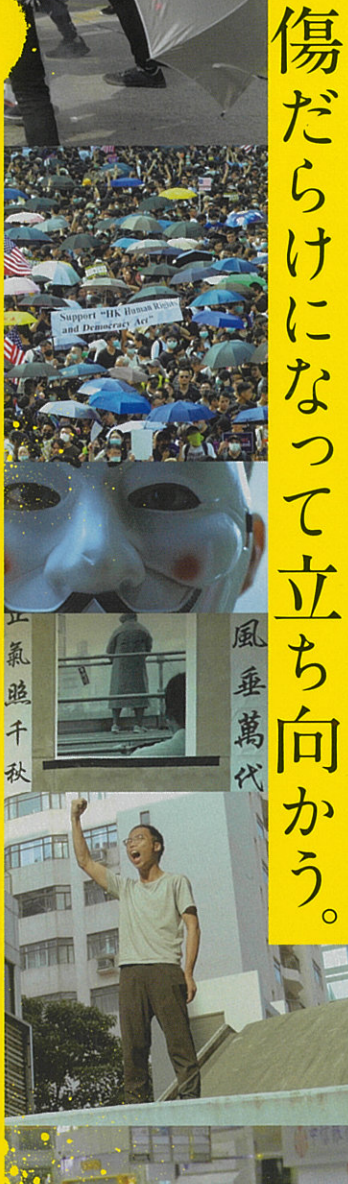


時代は私たちを選びませんでした。しかし、私たちは時代を変えることを選んだのです —— キウイ・チョウ(本作監督)

2019年、香港で民主化を求める大規模デモが起きた。10代の少年、若者たち、飛び交う催涙弾、ゴム弾、火炎瓶……。この最前線を中心に、壮絶な運動の約180日間を多面的に描いたのが本作だ。カンヌ国際映画祭などでサプライズ上映され、国際社会に深いインパクトを与えた衝撃作が遂に公開する。デモの発端は、犯罪容疑者の中国本土引き渡しを可能にする逃亡犯条例改正案が立法会に提出されたことだった。運動が盛り上がり、2019年6月ごろからの動きを追う——。参加者たちは「逃亡犯条例改正案の完全撤回」「普通選挙の導入」などを五大要求として掲げ、6月16日には、香港の人口の約3割を占める約200万人(主催側発表)に膨れ上がった。警察との衝突は徐々に激しさを増す。デモ参加者には10～30代の男女が目立ち、70代の男性の姿もある。青年が警官に突然銃撃されるショッキングな場面も映し出される。「ささやかな我が命を200万人に捧ぐ」という遺書を残し、自殺する者も出た。

自由や民主主義は、損なわれる危機に直面して、得難く尊い価値を人々に自覚させるのかもしれない。「光復香港、時代革命」「香港人、加油」と声を上げて抗議する若者たち。中核的な組織体やリーダー不在の運動だが、SNSを駆使し、機動的に統制されている実態も明らかになる。立法会、地下鉄駅、香港中文大学、香港理工大学などの場が積み重なり、組み合わせられ、運動の大きなうねりを記録していく。映画では、香港理工大学でのデモ隊の敗北が重苦しく描かれる。増える逮捕者。香港から離れていく人々。民主化運動は逃亡犯条例改正案の撤回を勝ち取ったものの、2020年夏、中国当局の意向を踏まえ、より強圧的な香港国家安全維持法が施行された。自由への圧迫はますます強まった。新型コロナウイルス感染症も追い打ちをかけ、デモは封じられた。

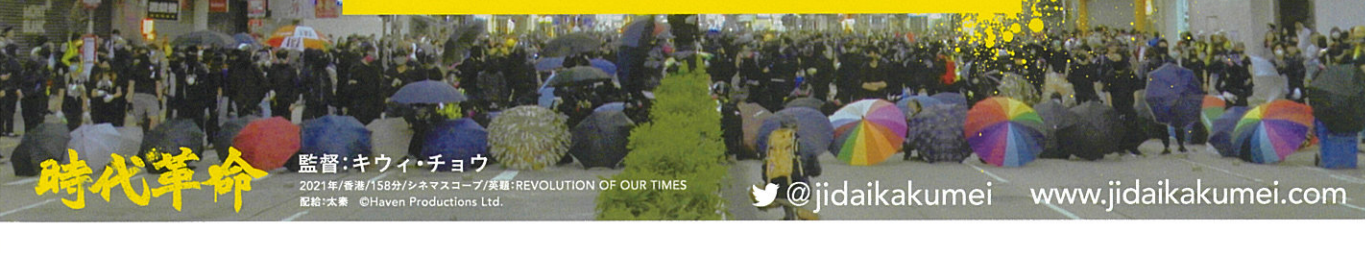
自由とアイデンティティーをめぐる、絶望と希望の物語。スクリーンでしか観られない、衝撃の158分。



香港・日本の共同製作により完成!

2014年、香港の若者たちが未来のために立ち上がった「雨傘運動」の79日間を描いた『乱世備忘 僕らの雨傘運動』でチャン・ジューン監督は、「20年後に信念を失っているのが怖いか?」と出演者に問いかけた。その言葉は監督自身への問いかけでもあったが、運動直後のやるせない思いが憂鬱さとなり島を覆い、想像を超える急激な変化の中で、20年を待つまでもなくチャン監督は自らその問いに答える必要に迫られることとなった。雨傘運動を先導していた者たちが逮捕され、市民が沈黙したことで、この島の民主主義や自由への道りを、より深く再考しなければと本作の製作を思い立つ。一国二制度が踏みこまれた香港社会は混乱を極め、コロナ禍の影響もあり窮地に陥りながらも、香港が内包する不安と希望を描いた衝撃作『十年』のプロデューサーであるアンドリュー・チョイ、若き政治家の葛藤を描いた『地厚天高』を製作したピーター・ヤムと共に、クラウドファンディングによるたくさんの方の応援もあり、2022年ようやく完成を迎えた。

20世紀後半、“文化大革命”(1966～1976年)“六七暴動”(1967年)“天安門事件”(1989年)と世界を震撼させた事件に遭遇し、激動の歴史を乗り越えてきた記憶。そして現代、香港市民の自由が急速に縮小してゆくなかで、時代を超えて自由を守るために闘う姿をドキュメンタリーとフィクションを駆使してより鮮明に描きだす。この映画は、自由を求めるすべての人々とあなた自身の物語でもある。



「激動香港 市民は何を目指したか」特集 (2023/1/11 水～22日 ※1/16 休映) 内にて上映
 料金：一般 1,800円/学生、高校生 1,500円/中学生以下、シニア、障害者手帳をお持ちの方 1,200円
 13(金)、14(土)、15(日)、20(金)、21(土)、22(日) 10:50 11(水)～15(日)、17(火)～22(日) 16:05
 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館ホール
 www.topmuseum.jp TEL: 03(3280)0099

「激動香港 市民は何を目指したか」特集 (2023/1/11 水～22日 ※1/16 休映) 内にて上映
 料金：一般 1,800円/学生、高校生 1,500円/中学生以下、シニア、障害者手帳をお持ちの方 1,200円
 11(水)、14(土)、19(木)、22(日) 13:00
 監督:キウイ・チョウ
 2021年/香港/158分/シネマスコープ/原題:REVOLUTION OF OUR TIMES
 配給:太業 ©Haven Productions Ltd.
 @jidaikakumei www.jidaikakumei.com
 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館ホール
 www.topmuseum.jp TEL: 03(3280)0099

※全席指定。各回定員入替制。立ち見不可。事前予約不可